



新入団員を増やすには

宇美町消防団新三役にインタビュー

積極的な情報発信でもっと身近な存在に



左から松永豊副団長・音成芳晴団長・末継典秀副団長

新入団員確保に向けて

松永副団長 新入団員の確保には地域の皆様の協力が不可欠。広報活動に加え、各分団の垣根を超えた団員勧誘にも積極的に取り組みたい。

音成団長 宇美町消防団の活動を若い人たちを含め多くの住民に知っていただくことが大切。

フェイスブックやインスタグラム、ティックトック等のSNSを活用して、訓練の様子や活動状況を積極的に情報発信していきたい。

末継副団長 まずは団員に宇美町の現状を伝え、勧誘の強化や地域でのイベントにも積極的に出向きたい。そして、防災訓練等のイベントで小中学生と積極的に交流し未来の消防団員を育てたい。



原田小学校区コミュニティ防災訓練に参加した小中学生は、土嚢（どのう）づくり体験を行った。



先輩方から受け継いだ伝統技術（はしご乗り）

4月5日（日）に開催された消防団の交替式は、新型コロナウイルス感染症に係る対応により、新団長含む三役と分団長のみの出席で執り行われました。

議会広報を通じて町民の皆さんに、新団長、新副団長の抱負や心意気などをお知らせします。

新体制での抱負

音成団長 現在、宇美町消防団は10分団計152名の団員で活動しており、松永・末継両副団長と協力し、宇美町役場や小学校区コミュニティと連携を密にして宇美町全体で一枚岩となって活動できる消防団を作りたい。



松永副団長 新体制になってからも引き続き火災対応はもとより、水害や土砂災害、行方不明者の搜索等の多岐にわたる現場対応に精一杯努めていきたい。

また、更なる地域防災体制強化のために、団員の確保と地域とのつながりを深めていきたい。

末継副団長 交替式で音成団長から副団長の辞令をいただき、身が引き締まる思いがした。

団長を支え三役のやるべきことを務めていきたい。



消火栓や防火水槽の位置がすぐわかるように蛍光塗料で着色。休日返上で活動する消防団員

これからの消防団

末継副団長 これからも火災や災害の訓練をしっかり行い、迅速に対応ができる組織にしていきたい。

音成団長 宇美町役場や地域の皆様、そして歴代先輩の方々とのコミュニケーションを大切にし、宇美町の現状に即した消防団にしていきたい。

松永副団長 伝統と歴史ある宇美町消防団なので、諸先輩から受け継いだものを大切にしたい。





大雨の時期を前に!

粕屋南部消防本部防災センターで

防災体験してみませんか

AEDを使った救急蘇生法講習会



防災シアターでは消防署職員が講師となりAEDとダミーを使った救急蘇生法講習会を受講することができます。

約3時間の講習は一度に30人程が受講でき、受講者には修了証が交付されます。

AED(自動体外式除細動器)とは

電気ショックを行い、心臓を正常なリズムに戻すための医療機器で音声ガイドに従って操作を行えばどなたでも使用できます。



これから梅雨前線による大雨の時期がやってきます。地球温暖化の影響などで、2017年7月に発生した九州北部豪雨災害をはじめ、近年の雨の降り方はこれまでの常識を覆すような大雨となる場合があります。また、常日頃から地震や台風、火災等の災害を想定し、備えておくことが大切です。

そこで、議会広報常任委員会では、粕屋南部消防本部に設置してある防災センターを取材し、地震や台風・洪水などの災害体験、火災や救急等の通報体験、そして消火体験を行いました。



(志免町大字田富170番地)

粕屋南部消防本部は糟屋中南部の6町で運営されており、宇美町からは消防組合分担金として約4億円が支払われています。

防災センターには社会科見学などで年間約4,700人が訪れ、また、防災シアターで行われているAEDを使った救急蘇生法の講習会等で年間5,383人が受講されています。



はしご車の試乗体験



風速30メートルを体感できる風体験



暗闇の中での煙体験



火災時・救急時の通報体験



消火器を使う消火体験



防災グッズ展示コーナー

特集 1

特集 2

3月定例会

委員会

各委員会活動

その他の活動